



2019. 9. 30

藤島高校図書委員会

読書界 9月号

テーマ 「読み返したくなる本」

『氷菓』 米澤穂信 角川文庫

「やらなくてもいいことなら、やらない。やらなければいけないことなら手短かに」がモットーの主人公である折木奉太郎が高校に入学し、姉に頼まれ古典部に入部する。そこで様々な事件が起こり、省エネ主義の奉太郎がめんどくさがりながらも多くの謎を解き明かしていく。さらに、その謎の中には奉太郎が通っている高校の文化祭についての大きな謎があった。

読み終わったときは思わず2度見してしまうだろう。現在シリーズ6巻まで発売中。是非一読ください。

1年男子

『博士の愛した数式』 小川洋子 新潮文庫

主人公の「私」は、家政婦紹介組合に登録して働き、小学生の息子と二人暮らしをしていました。そんな「私」の新しい雇い主となったのは年老いた数学博士。彼は過去にあった交通事故により、事故にあう以前の記憶以外は80分しか記憶する事ができません。そんな、博士と「私」と息子の三人の物語です。

2年女子

『ほら男爵 現代の冒険』 星新一 新潮文庫

「ほら男爵」の異名を祖先にもつシュテルン＝フォン＝ミュンヒハウゼン男爵は、育ちの良い32歳の独身男性。祖先の執念のせい、旅に出かけると必ず奇妙な事件が待ち受けている。

愛すべきわが男爵の前に出現するのは、人魚、宇宙人、ドラキュラ伯、木乃伊男、美女、魔女、インディアンetc…。懐かしい童話の世界に現代人のチキンな夢と願望を託した、ユーモアのある現代傑作犬儒学派冒険物語。

3年男子

『どちらかが彼女を殺した』 東野圭吾 講談社

最愛の妹が殺された。容疑者は二人。一人は妹の親友。もう一人はかつての恋人。妹の復讐に燃える兄がたどり着いた真犯人は男か？ 女か？

この本は、最後まで犯人の名が明かされず、推理が読者に委ねられるという、究極の推理小説です。何度も読み返すとヒントが見えてくるはず…。あなたは犯人を特定することができますでしょうか。無事犯人が特定できたなら、次は容疑者が三人に増え、難易度がぐっと上がった『私が彼を殺した』にも、ぜひ挑戦してください。

3年女子